

大間原発建設やめさせよう！とシンポジウムに各界から500人 「奮闘する共産党の姿に感動しました」「“大間を止めよう”とひとつになった」

4月6日、シンポジウム「海とともに生きる函館でどう大間原発に立ち向かうか」が開催されました。主催したのは、函館地区委員会、渡島檜山地区委員会、国会議員団道事務所です。パネリストは、紙智子参議院議員、鈴木明広・福島避難者ネットワーク函館代表、水戸保・旧戸井町(現函館市)元教育長です。



森つねと国政相談室長が主催者挨拶、畠山和也政策委員長がコーディネーターをつとめました。会場の函館市芸術ホールに500人が駆けつけました。参加者もマスコミ記者も、「うおー、いっぱい入っていますね」とビックリするほど。道教育大学函館校教授、道立工業技術センター専務理事、ホテル社長、飲食業社長、弁護士、函労会議はじめ労組幹部、元市議会議長など多方面から幅広い参加者が熱心に話に聞き入り、12人が途切れなくフロアから発言しました。紙智子議員は、3月9日の福島第一原発と28日の大間原発の現場視察の結果をリアルに報告しました。「福島は高い放射線量や汚染水処理が深刻で、事故の『収束』などと言える状態ではない」「こんな時に大間原発の建設はあってはならない」と指摘し「原発問題の根本的解決に向け、国民的議論を進展させ即時原発ゼロへの運動を広げていく」と決意を述べました。福島から家族4人で避難している鈴木明広氏は「子どもが被爆するのがどんなに恐ろしいことかを念頭に原発を考えてほしい」と、水戸保氏は「大間原発と函館は、海を隔てて遮るのが何もない。事故で人間が住めなくなる危険な原発を地域振興に使うべきではない」と訴えました。「大間原発は函館だけの問題ではない、世界が注目している。大間を止めないといけない」の発言がありました。参加者が心ひとつに、シンポジウムを成功させました。

小池晃政策委員長が根室に入り、 「領土問題と地域経済を考える意見交換会」—森つねと選挙区候補が同行

4月2日、小池晃政策委員長が根室市入りし、「領土問題と根室地域経済を考える意見交換会」に参加しました。根室市議団が案内し、この日参加し発言したのは千島・歯舞諸島居住者連盟、副市長、3つの漁協の専務、商工会議所、商店街振興組合。会場には元島民や市民はじめ、漁業、地元信金、行政関係者など「一度、共産党の話を聞きたい」と会場に詰めかけました。地元マスコミも注目、大きく取り上げました。魚価の低下、ロシア側に支払う入漁料、制限された海域による操業など漁業者の苦境、関連産業の衰退、落ち込む地域経済などつぎつぎ語られました。小池政策委員長は「国の外交的無策、失政によって2重3重の苦しみを強いられている。この地域に政治の光をあて、支援することが大切だ」と語っています。参加者からは、「共産党は話を受けとめてくれた」と根室市議団に喜びの声が寄せられました。



納沙布岬から島を見る小池晃氏、森つねと氏



元島民の意見に聞き入る小池、森、畠山各氏

日本共産党国会議員団北海道事務所ニュース 2013・4・10 4月 no.3

札幌市中央区南1条東4丁目 ☎011・261・0786 FAX011・251・5408 E-mail: jcphkd@jcphkdbl.gr.jp